

シップリサイクルシステム構築に向けたビジョン【概要】

現状と課題

【世界的問題意識の高まりと世界的規制の枠組み】

- ・船舶解撤は、労働コストの観点から、インド・バングラデシュ・パキスタン・中国が中心。
- ・一部の国では、労働安全衛生や環境保全などが十分に考慮されず、死傷事故や環境汚染等が頻発。
- ・国際海事機関において、シップリサイクル条約を策定。2009年5月に採択予定。
- ・世界有数の海運国・造船国である我が国は、今後とも健全なシップリサイクルを推進。

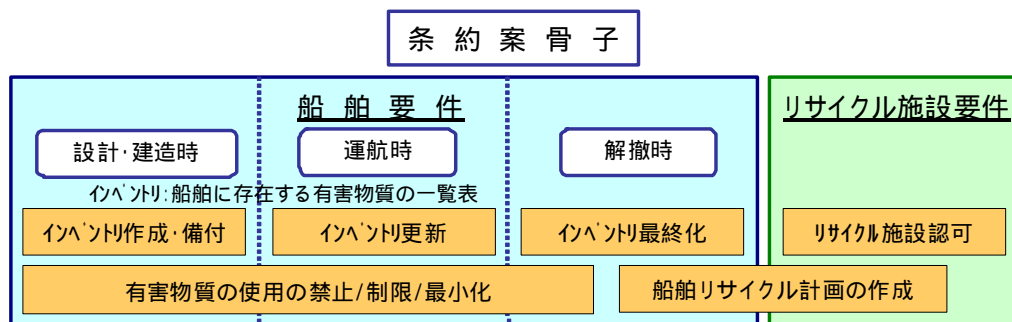
【船舶関連】

- ・世界の船腹量約10万隻(NK船約6500隻)にインベントリの作成・備置・維持が必要。
- ・内航船(約5500隻)のほとんどは海外中古売船であり、売船時条約対象。

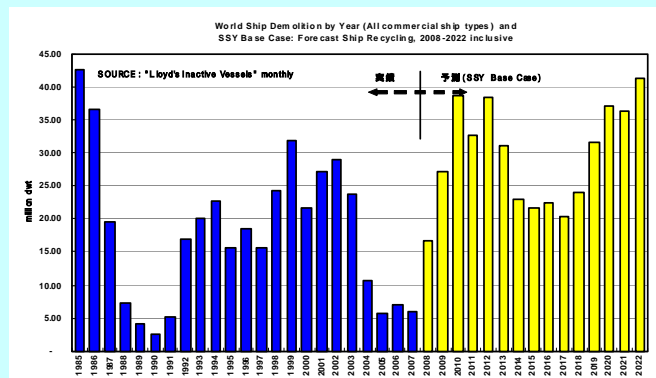
【船舶リサイクル施設関連】

- ・今後、解撤量が増大するものと見込まれ、世界の解撤能力不足が懸念。
- ・バングラデシュは条約に批准できない可能性大。中国・インドは批准に意欲的。
- ・その他、国内外の環境規制が強化の方向。
- ・条約に適合した船舶リサイクル施設の確保が重要課題。

条約案骨子



世界解撤量の実績と予測の推移



シップリサイクルに関するビジョン

以上の現状と問題点を踏まえ、以下のとおりビジョンを示す。

	船舶に関する対応	船舶リサイクル施設に関する対応
<p>短期的ビジョン (条約発効前後の対策)</p>	<p>【ビジョン】 主要海運・造船国として、安全かつ環境上適正な国際規律に則ったシップリサイクルを可能とする船舶の運航と建造を推進</p> <p>【実現のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際規律と国内法令の整備 ・新船に関する対応 <ul style="list-style-type: none"> - 材料宣誓書作成支援ソフトの開発・普及 - インベントリ作成ソフトの開発・普及 ・現存船に関する対応 <ul style="list-style-type: none"> - 現存船インベントリ作成専門家育成確保 - 有害物質データベースの作成 - 条約適合鑑定書(SOC)の発給体制の整備 	<p>【ビジョン】 主要海運国として、安全かつ環境上適正な国際規律に則ったシップリサイクルを可能とする船舶リサイクル施設の基準設定とその整備を支援</p> <p>【実現のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際規律と国内法令の整備 ・世界の解撤能力とヤードの安全・環境レベル評価 ・海外・国内ヤードの条約適合支援 ・先進国型シップリサイクルモデルの開発 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>中長期的ビジョン</p>	<p>【ビジョン】 船舶3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進</p> <p>【実現のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有害物質の削減、省資源化、小型化への取り組み ・船体構造と機器等の分解容易設計の推進 ・ライフサイクルを通じた材料情報の管理・伝達 <p>【ビジョン】 先進型シップリサイクルシステムの確立</p> <p>【実現のための方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進国型シップリサイクルモデルの全国展開 <div style="text-align: center;">  </div>	